

basic の見立て

立位

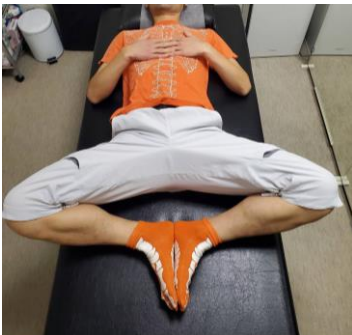


- ・肩甲骨を下制内転させて肩甲骨が挙上すれば上肢の歪み



- ・乳様突起と耳たぶの左右差で低い方に頭蓋骨が歪んでいる
- ・乳様突起（脳頭蓋）と、耳たぶ（顔面頭蓋）の歪みが同側でない場合は内臓を疑う

骨盤



- ・股関節を外旋外転位で開いて上前腸骨棘の高さ（ベッドとの高さでなく、頭と脚の高さ）の左右差があれば、歪みがある
- ・この左右差を指標に全身の歪みを確認する

下肢



- ・膝と股関節を屈曲して屈曲制限があれば下肢の歪み
- ・左右差を確認する

体幹



- ・ 膝と股関節の屈曲位で倒して制限があれば体幹の歪み
- ・ 左右差を確認する
- ・ 乳様突起（脳頭蓋）が頬骨弓（顔面頭蓋）の左右差で低い方に頭蓋骨が歪んでいる
- ・ 立位での歪みと変化があれば、仰臥位が本来の頭蓋骨の歪み

上肢



- ・ 肘を屈曲して制限があれば上肢の歪み
- ・ 左右差を確認する

伏臥位



- ・ 膝を屈曲し制限があれば、制限がある側の半身に歪み（下半身だけでなく上半身の歪みも影響する）
- ・ 仙骨が真直ぐになる位置にした時の左右差を確認する

自律神経の見立て（仰臥位）

脳



- ・頭の筋肉の緊張があれば自律神経の脳の緊張
- ・頭蓋骨の歪みから頭の筋肉が緊張して、脳が緊張する場合もあるし、ストレスなどにより脳が緊張して頭の筋肉が緊張して頭蓋骨が歪むこともある

脊髄



- ・踵を持って重さがあれば自律神経の脊髄の緊張
- ・脊髄の通る脊椎の緊張＝脊柱起立筋群（SBL）の緊張があると脚が重くなる
- ・左右差を確認して重い側の指や趾の緊張を改善する

内臓



- ・腹部を押してみても硬さがあれば自律神経の内臓の緊張
- ・腹斜筋など体幹部の緊張によって全体的に緊張している場合もあるので注意する
- ・さらに細かく診る場合は内臓の見立てで各臓器毎に確認する